

はじめに

『御堂関白記』は、まことに特殊な日記である。これを『小右記』などと同じく「古記録」の範疇に入れてよいものか、いささか再考の余地なしとしない。

特に、『御堂関白記』全文の現代語訳を完成させた後、続けて『権記』の現代語訳を完成させ、次いで『小右記』の現代語訳を作成している今となつては（その間、『春記』の訓読文を完成させ、『左経記』の訓読文、『歴代残闕日記』所収の『二東記』をはじめとする古記録の訓読文も作成途上である）、これらの日記と『御堂関白記』を一律に論じていいものなのか、迷い始めている。

撰関期古記録の中の『御堂関白記』の特質を抽出し、その座標をひとまず確立することは、ひとり『御堂関白記』研究のみならず、古記録研究そのもの、また撰関政治論や王朝文化論にとつても、必要な作業なのだと考えている。

かつて一九七九年に木簡学会が発足したとき、初代会長の岸俊男氏は、「木簡そのものについての研究」を強く主張されたが、多くの古代史研究者は「木簡を史料にした歴史研究」を行なっていたという。田中琢氏はこれを、「かつおぶしをネコのまえにおいて、それをよく調べろ、ただし、喰うなどというようなものだ」と一九九〇年に喩えておられた（『木簡研究』第二二号「巻頭言」）。しかし、あの時代から、木簡研究は木簡そのものに対する研究としても、長足の進歩を遂げた。古文書学研究もまた、古代に関して言えば、主に正倉院文書研究として精

緻にして豊かな研究が蓄積されている。

しかし、かつては桃裕行『古記録の研究』（思文閣出版、一九八八―一九八九年）や齋木一馬『古記録の研究』（吉川弘文館、一九八九年）といった名著が刊行されたにもかかわらず、近年の古記録学なるものは、ごく一部の中世史研究者の間ではそれなりの成果を得てはいるものの（尾上陽介『中世の日記の世界』山川出版社、二〇〇三年。元木泰雄・松蘭斉編『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房、二〇一一年。倉本一宏編『日記・古記録の世界』思文閣出版、二〇一五年など）、古代史研究の世界では、まだまだ日暮れて道遠しといった観がある。

古記録の原本調査を行なう古代史研究者も少ないし、謄写本や写真版が存在するものについても、それを一々確認する研究者がどれほどいるであろうか。写本による違いを気にする人もあまりいないように思える。『大日本古記録 御堂関白記』の初刷から四刷までを揃えて、各版の違いを意識している研究者も、私くらいのものであろう（『権記』『小右記』も全刷を揃えて比較している）。中世史や国文学では当たり前の基礎作業が、何故に古代史研究では等閑にされているのであろう。これではまさに、かつて土田直鎮先生が、「古文書学概論に匹敵するだけの体系も、大きな展開も、今のところでは生れていない。……実際にはそれ程の精密な検討を加えることなしに間に合せ、また、一応の論文を書く程度のことならば、それでも事足りているのが現状であろう」と書かれたままの状態なのである。

この本に収めた「『御堂関白記』全現代語訳を終えて」（第四部二）にも書いたが、一般的な研究者の古記録との接し方というと、自分の研究に都合のいい記事だけを拾い出して、そこだけを解読する、あるいは索引やインターネットを使った「検索ごっこ」で表を作り、「論文のようなもの」を書く、といったところではないだろうか。「表計算ソフト」の表などを貼り付けた「論文」の抜刷を送られてくると、それだけで読む気が失せてしまう。

ところで、歴代の『岩波講座 日本歴史』では、古記録はどのように扱われてきたのであろうか。第一次には田山信郎『記録——特に平安朝の日記について——』（一九三五年）が一冊として独立しており、第二次（一九六二—一九六四年）には史料論に関する論文はなく、第三次には第25巻『日本史研究の方法』（一九七六年）に土田先生執筆の「古代史料論 記録」が収められていた（一部前掲）。第四次（『岩波講座 日本通史』）には別巻三（一九九五年）が『史料論』と題しているものの、富田正弘氏執筆の「中世史料論」は収められていたにもかかわらず、古代は佐原真氏執筆の「原始・古代の考古資料」しかなかった。そして先ごろ刊行された第五次にも、第21巻『史料論』（二〇一五年）に佐藤信氏執筆の「木簡史料論」と細井浩志氏執筆の「国史の編纂」、第22巻『歴史学の現在』（二〇一六年）に山口英男氏執筆の「史料論 正倉院文書と古代史科学」という論文は収められていたものの、「古記録」は相変わらず消えてしまっているままである（第1巻『原始・古代一』（二〇一三年）の大津透氏執筆の「古代史への招待」に『御堂関白記』と『権記』の現代語訳が紹介されていたが）。つまりは、土田先生の研究をもって古記録研究は一段落し、それ以降の歴史学界は講座に載せるほどの成果は得られていないということなのであろう（まったくその通りなのだが）。

そろそろ古代の古記録についても、古記録そのものの研究が始まらないといけないのではないだろうか。私にはとてもそのような大それた研究ができる能力はなく、まことに微力なのではあるが、「かつおぶし」としての『御堂関白記』そのものの考察の一端を、ここに考えてみたい。

目次

はじめに i

序論 藤原道長と『御堂関白記』	3
第一部 『御堂関白記』 自筆本をめぐって	
第一章 『御堂関白記』の裏書	23
第二章 『御堂関白記』 自筆本の文字の抹消	64
第三章 『御堂関白記』 自筆本寛弘五年秋冬卷の裏に写された『後深心院関白記』抜書	104
第二部 『御堂関白記』の書写	
第一章 『御堂関白記』 古写本の書写	127
第二章 『御堂関白記』の仮名	177
第三章 『御堂関白記』 古写本・寛仁元年九月卅日条と十月一日条の書写順序をめぐって	213
第四章 平松本『御堂関白記』と『御堂御記抄』	236

第三部 『御堂関白記』の内容

- 第一章 「内府悦気有り」……………259
- 第二章 寛弘五年七月の彰子土御門第退下をめぐる…284
- 第三章 『御堂関白記』に見える「女方」……………291
- 第四章 『御堂関白記』の「妻」と「妾」について…299

第四部 『御堂関白記』雑感

- 一 『御堂関白記』全現代語訳を終えて……………313
- 二 「御堂関白」藤原道長の実像……………323
- 三 『御堂関白記』は何故にすごいのか……………327
- 四 平安時代理解のあたらしい地平へ——古記録の現代語訳は何故に必要か——……………330
- 五 『御堂関白記』の世界記憶遺産（世界の記憶）登録について……………334
- 六 『御堂関白記』利用の変遷と「撰関期古記録データベース」……………344

初出一覧 357

おわりに 359

索引

おわりに

『御堂関白記』を読み始めてから、今年の十月でちょうど四十年になる。幾多の先学には遠く及ばないものの、それでもかなりの時間、人生のちょうど三分の二を『御堂関白記』と過ごしてきたことになる。この間、註釈の仕事を長く続けたり、現代語訳を作ったり、「世界の記憶」の書類を書いたり、『御堂関白記』関係の著書を何冊か刊行したりして、関係がずっと続いている。少し思い起こしただけでも、様々な人々と、様々な局面で、『御堂関白記』と接してきたことが脳裡に浮かんでくる。一々お名前を挙げることは控えるが、改めて感謝したい。

まったくの偶然であるが、今年の十月は、道長が「この世をば」の歌を詠んでから、ちょうど千年になる（現代の暦では二〇一八年十一月二十五日にあたるが、満月というと、十一月二十二日から二十三日に替わる直前に月齢一五・〇を迎える）。この歌が偶然、『小右記』に記録されて、これまた偶然に今日まで残されたことが（前田本は歌の部分が焼けていて、他の古写本は寛仁二年が残っていない）、道長にとって、また撰関期のイメージにとって、いいことだったのかどうかは別にして、今年はこの区切りの年ということになるのであろう。

そして、これこそまったく偶然であるが、思文閣出版の田中峰人さんと話をしていて、これまで書きためていた『御堂関白記』に関する論文や、「世界の記憶」登録に際して書くことになった原稿を、

一冊にまとめてみてはということになり、何本かの新稿を加えて、あつという間にこの本ができてしまった。

ここいらでそれらをまとめてみようと思いついたのは、近年は毎日、朝から晩まで『小右記』を読む日々が続き、『御堂関白記』の特異性がより鮮明になってきたことにもよる。そろそろ『御堂関白記』にはひと区切り付けて、普通の古記録と普通の和風漢文を勉強しないと、普通の古記録研究者のレベルから取り残されてしまうのではないかという危機感があることも事実である。とまれ、このような本を出版して下さって、まことに感謝に堪えない。

私をはじめ『御堂関白記』を読んで書いたレポート「藤原頼通の春日祭勅使」は、一九七九年二月に提出したものである。その後、「歴史物語と古記録1 御堂関白記——藤原頼通の春日祭勅使をめぐって——」と改題して歴史物語講座刊行委員会編『歴史物語講座 第7巻 時代と文化』（風間書房、一九九八年八月）に載せてもらい、「藤原頼通の春日祭勅使をめぐって——歴史物語と古記録の間——」と再改題して拙著『撰関政治と王朝貴族』（吉川弘文館、二〇〇〇年七月）に再収した。

教養ゼミの一年時のレポートを論文集に載せるなど、ほとんど詐偽みたいなものであるが、はたしてその時から、私の『御堂関白記』の「読み」は、どれほど進化（および深化）したのであるか。機械のお陰で「読み」のスピードは増し、陽明文庫の名和修文庫長のご厚意で現物に触れる機会も増え、勤務先で買ってもらったお陰で自筆本複製に日常的に接することもできてはいるのだが、四〇年の時間を振り返ると、いささか心許ない。

四〇年前は単に記事の内容を読解しようとしていただけであり、その後も長い間、自分の撰関政治論や王朝貴族論（のようなもの）、また道長や一条天皇などの人物論（のようなもの）に使えそうな記事

を探して読解する作業だけに終始していた。近年ではそれだけに留まらず、道長の書き方、消し方、直し方、また写本の写し方など、記録や書写の顛末を再現し、道長や師実の脳内にまで踏み込むようになってきているが、それも学問の深化というよりも、加齢に伴って理屈っぽくなっているだけなのかもしれない（弟子からは、最近、実質に似てきたと言われている）。

先輩たちが真夏に平安博物館の冷房を止めた暑い部屋で『御堂関白記』の発表をされているのを聞きながら、自分もいつかはここで『御堂関白記』の発表を行ない、『古代文化』に『御堂関白記』の註釈を載せるようになってみたいと夢見ていたあの頃の熱情は、はたして今でも残っているのだろうか。

あの京都の暑い夏を思い出しながら、この本をきっかけにして、また新たなスタートを切ってみた。残された時間は少ないのかもしれないが、「今なら間に合うかもしれない」という楽観的な希望（それはこの四十、いや六十年の間、私を支えてきた根本的な心情である）を唯一の頼みとして、新たな勉強を始めてみたいと考える今日この頃である。

このような本を出版してくださる思文閣出版、特に田中峰人さんと、編集に携っていただいた大地亜希子さん、陽明文庫の名和修氏、校閲や校正に協力してくださった方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

二〇一八年七月 三条高倉・平安博物館故地にて

著者識す

索引

【人名】

あ		大江拳周	245
葵の上	299	大江時棟	248, 249
梟 奉平	67, 94, 286, 288	大江匡衡	243, 245, 247, 248
昭平親王	262	大江通直	248, 249
直 是氏	141	大江至孝	303
敦実親王	293	大江以言	247~249
敦平親王	194	大中臣実光	151
敦道親王	247~249	大中臣奉親	45
敦康親王	4, 30, 47, 135, 156, 157, 186, 207, 260, 284~286, 289, 317	織田信長	106
油小路隆家	121	小野於通	107
安倍晴明	66, 87, 93, 315	尾張兼時	29
安倍吉平	163, 286, 288	女三宮	299
有明親王	276		
有明親王女	276, 280	か	
一条実経	12	雅慶	30
一条天皇	3, 4, 13, 28, 33, 36, 65, 67, 79, 87, 88, 104, 105, 108, 113, 114, 123, 132 ~134, 148, 149, 157, 186, 207, 236, 254, 259, 260, 262, 269, 270, 272~280, 282, 284~286, 289, 308, 316, 317, 321, 330, 360	覚運	31, 54, 249
一絲文守	107	覚慶	31, 37, 242, 268, 273
院源	152, 167, 242, 243, 245, 268, 270	花山院	13, 29~31, 40, 66, 67, 132, 179, 181, 242, 247, 276, 317
宇多天皇	292, 293	雅子内親王	275, 276
婉子女王	298	勸修寺経方	121
円融天皇	4, 260, 276, 277, 284, 285	金森宗和	107
多 武文	31	賀茂光栄	163, 188, 286, 288
多 吉茂	248	勸子内親王	275, 276
大江清通	35, 245	観修	30, 31, 242, 243, 280
		観助	31
		観真	265
		観峯	303
		紀齐名室	300, 305
		紀 忠道	32
		慶円	190, 191, 265
		慶快	265
		慶算	47
		慶命	75, 97, 153, 163, 242
		清原重憲	356
		清原致信	196

九条兼実	12
九条教実	12
九条道家	12
九条良経	12
内蔵為親	243
藏命婦	190, 209
小一条院(敦明親王)	199, 210, 295, 297
後一条天皇(敦成親王)	3~5, 13, 32~37, 43, 44, 47, 60, 61, 73, 77, 82, 105, 108, 113, 114, 123, 132~134, 171, 172, 214, 236, 259, 260, 266, 274, 281, 283, 284, 289, 294, 296, 321, 349
康子内親王	275, 276
後三条天皇	280
小式部(藤原泰通室)	304
後白河天皇	280
後朱雀天皇(敦良親王)	4, 13, 14, 33~35, 48, 60, 75, 132, 133, 161, 195, 266, 272, 273, 283, 294
近衛家実	12, 18
近衛家熙	16
近衛前子	107, 108
近衛兼経	12
近衛信尋	107, 108
近衛信尹	104~108, 110, 111, 113, 114, 116, 121~123, 351
近衛尚通	124
近衛前久	106, 108, 111
近衛道嗣	18, 104, 106, 108, 111, 121, 122, 351
近衛基実	12
近衛基嗣	106, 122
近衛基通	12
狛 茂樹	31
後水尾天皇	107, 108
後陽成天皇	107, 108
惟宗為忠	169
惟宗行利	71
厳久	242
さ	
济信	144, 190, 191, 242
雀部是国	32

三条天皇(居貞親王)	3, 8, 13, 28, 33, 34, 36, 47, 75, 79, 108, 132, 133, 141, 144, 151, 163, 172, 185, 186, 207, 209, 210, 241, 245, 246, 263, 269, 272, 283, 284, 296, 316, 317, 324, 326
三位典侍	83
式部(橘忠範室)	301
滋野善言	249
資子内親王	242
下毛野公助	194
脩子内親王	4, 71, 285
春屋宗園	107
少輔(大江清通女)	206
松花堂昭乘	107
定基	214, 216~218, 221, 224, 225, 227~230, 232, 233
定澄	184, 242, 249
庄命	153, 242
白河天皇	280
尋円	265
深覚	276
尋光	242
仁善	249
尋禪	276
心誉	167
新殿姫君(近衛道嗣妹)	119
菅野敦頼	169, 172
菅野文信	33, 142
菅原輔正	242, 248
菅原忠貞	248, 249
菅原為理	249
菅原宣義	146, 248, 249
崇徳天皇	280
嫪子女王	84, 92
選子内親王	32, 35
た	
醍醐天皇	275~277, 280, 281, 293
平敦兼室	301
平 維時	38
平 維衡	38, 154
平 実親	356
平 重義	45

- 平 季久 78, 97, 172
平 孝義 248, 249
平 親信 49, 242, 243
平 信兼 117
平 正忠 249
高階明順 30
高階仲章 356
高階業遠 34, 146
高階積善 248, 249
鷹司兼平 12
沢庵宗彭 107
橘 為義 30, 35, 245, 249
橘 徳子 32, 34, 75, 163
橘 儀懐 264
橘道貞室 300
橘 安国 120
為重丸 303
仲増 355
朝寿 266
澄心 54
禎子内親王 13, 132, 193, 199, 262, 263, 326
禊子内親王 194
洞院実夏 118, 120
当子内親王 49, 194
鳥羽天皇 280
伴 惟信 248
伴 季随 243
具平親王 240, 247~249, 254
豊臣秀次 107
豊臣秀吉 107
豊原為時 42
- な
- 中原師元 356
二条昭実 107
二条良実 12
念救 47
- は
- 土師朝兼 32
秦 定重 143
秦 為国 45
播磨保信 31
光源氏 299, 330
姨子内親王 4, 285, 317
日野時光 121
扶公 37
藤原愛宮 293
藤原顕隆 355
藤原章信 249
藤原顕信 5, 37, 207, 269~271, 295, 317
藤原顕光 3, 4, 30, 31, 33, 36, 54, 69, 161, 162, 183, 185, 196, 242, 244~247, 249, 259~261, 271, 274~276, 278, 280, 282, 283, 302, 303, 308, 317
藤原朝忠 293
藤原敦信 248, 249
藤原敦光 356
藤原有国 31, 242, 244, 248
藤原安子 275, 276
藤原苺子 280
藤原威子 3, 5, 13, 37, 38, 44, 60, 61, 82, 83, 89~91, 99, 100, 132, 199, 266, 272, 273, 294, 296
藤原胤子 293
藤原魚名 277
藤原兼家 3, 4, 242, 260, 275~277, 282
藤原兼隆 31, 242, 243, 248, 249, 260, 263
藤原懐忠 31
藤原兼綱 72
藤原懐平 45, 136, 209, 242, 248, 263
藤原兼通 4, 260, 275~277, 282
藤原鎌足 277
藤原寛子 5, 142, 210, 295~297, 321
藤原元子 4, 259, 260, 274, 275, 302, 308
藤原嬉子 5, 13, 132, 199, 294
藤原義子(公季女) 5, 70, 259, 260, 273~276, 282
藤原義子(進内侍) 32
藤原公葛 275, 276
藤原公葛女 275, 276
藤原公実 280
藤原忻子 280
藤原公季 3, 5, 30~32, 34, 35, 38, 54, 75, 84, 89, 92, 97, 154, 163, 190, 242, 247,

249, 259~262, 268, 270~280, 282, 283	藤原璋子	280
藤原公忠	248	
藤原公任	29, 30, 36, 40, 66, 75, 77, 82, 97, 105, 149, 164, 166, 179, 180, 209, 242, 244, 246, 247, 259, 269, 288, 291, 308	
藤原公成	35, 190, 270, 278, 280, 283	
藤原公業	267	
藤原公信	35, 243	
藤原公教	280	
藤原公能	280	
藤原妍子	3, 4, 13, 34, 36, 40, 44, 60, 61, 75, 81, 132, 163, 185, 186, 189, 209, 242, 244, 246, 247, 263, 296, 326	
藤原惟風	248	
藤原惟任	32	
藤原伊周	3, 4, 7, 71, 113, 182, 183, 242, 277, 278, 285, 289, 317, 321	
藤原伊尹	275~277	
藤原定佐	195	
藤原貞仲	243	
藤原定頼	32, 215, 216, 220~222, 224, 225, 228~230, 232, 233	
藤原実季	280	
藤原実資	30, 33, 34, 36, 40, 45, 59, 86, 90, 146, 177, 244, 259, 261~269, 273, 281, 288, 289, 298, 310, 314, 323, 326, 330, 333, 345, 361	
藤原実経	33	
藤原実成	35, 84, 92, 100, 154, 163, 164, 166, 245, 246, 249, 259, 260, 280, 282, 283	
藤原实行	280, 356	
藤原実能	280	
藤原実頼	244, 277	
藤原悳子	276	
藤原遣子	242	
藤原彰子	3, 4, 13, 31~37, 47, 60, 65, 66, 70, 72, 74, 87, 88, 96, 104, 113, 132~134, 144, 169, 173, 174, 178, 179, 188, 189, 209, 236, 241~246, 249, 259~262, 266, 272~274, 279, 281, 284~286, 288, 289, 294, 296, 315, 320, 321, 330, 338	
藤原季仲	355	
藤原季成	280	
藤原相尹	169, 173, 174	
藤原輔尹	249	
藤原資業	31	
藤原資平	262, 263, 265, 266	
藤原資房	345	
藤原成子	280	
藤原娥子	36, 40, 61, 194, 285, 319	
藤原盛子	275, 276	
藤原詮子(東三条院)	4, 13, 31, 69, 87, 132, 260, 284, 285, 330	
藤原琮子	280	
藤原尊子(道兼女)	4, 260, 274	
藤原尊子(道長女)	5	
藤原隆家	35, 242, 246, 247, 249, 254, 259, 260, 285	
藤原拳直	249	
藤原高遠	143	
藤原高藤	277, 282, 293	
藤原高光	276	
藤原忠君	276	
藤原忠実	12, 128	
藤原忠輔	242, 245, 248, 268, 269	
藤原忠経	33, 249	
藤原齐信	30, 33~36, 74, 75, 97, 160, 185, 209, 240, 242, 243, 246~249, 254, 269	
藤原忠平	244, 277, 281	
藤原忠通	12, 356	
藤原為資	267	
藤原為時	33, 149, 248, 249	
藤原為光	275~278, 282	
藤原親業	154	
藤原経邦	275, 276	
藤原経通	75, 96	
藤原定子	4, 260, 284~286, 289, 330	
藤原遠量	276	
藤原遠度	276	
藤原遠度女	146	
藤原遠理	248	
藤原遠基	276	

- 藤原時姫 3, 35, 75, 242
 藤原時平 293
 藤原時光 81, 99, 242, 248, 249
 藤原知章 249
 藤原知光 163, 168, 169, 248
 藤原尚賢 261
 藤原長家 5, 38, 197, 210, 295
 藤原中尹 35
 藤原中正 3
 藤原永道 169
 藤原長能 248
 藤原濟家 73, 301
 藤原濟家室 301
 藤原濟時 285
 藤原信家 308
 藤原順時 249
 藤原陳政 30, 243
 藤原則友 248
 藤原教通 4, 36, 40, 47, 61, 73, 81, 82, 84,
 92, 99, 100, 102, 140, 141, 146, 209, 262,
 263, 269~273, 296, 304, 308, 320, 355
 藤原教通室(藤原公任女)
 36, 40, 291, 304, 308
 藤原広業 38, 146, 243, 249
 藤原庶政 48
 藤原弘道 249
 藤原穆子 34, 293, 296
 藤原正光 30, 31, 242
 藤原道兼 3, 4, 7, 260, 274, 277
 藤原通季 280, 356
 藤原道隆 3, 4, 7, 260, 276, 277, 285
 藤原道綱 3, 31, 33, 35, 49, 54, 77, 97,
 151, 242, 243, 246, 247, 249, 270, 277
 藤原通任 36
 藤原道長 3, 4, 6~8, 12~15, 18, 19, 23,
 27, 28, 39, 40, 43, 50, 51, 59~61, 63~
 65, 85~90, 92, 93, 100~102, 104, 108,
 111, 113, 114, 116, 123, 132, 133, 136,
 139, 159, 172~174, 177, 178, 204~207,
 209~211, 213, 214, 217~220, 222, 226,
 227, 231, 234~236, 239~241, 250~
 256, 259~275, 278~287, 289, 291~
 297, 299~301, 303~307, 309, 313~
 315, 317~321, 323, 325, 326, 328, 330,
 333, 334, 336~339, 345, 359, 360
 藤原通範 145
 藤原致行 303
 藤原致行室 303
 藤原茂子 280
 藤原基經 242, 277
 藤原師実 8, 10~12, 15, 18, 95, 96, 98,
 101, 102, 127, 131, 133~160, 172~175,
 177, 178, 184~188, 192~197, 202~
 207, 211, 214, 240, 241, 300~309, 355,
 360
 藤原師輔 260, 275, 276, 278~281, 293, 306
 藤原師通 12, 131
 藤原保相 143
 藤原保昌 38, 302
 藤原保昌室 302
 藤原泰通 38, 157, 197, 304
 藤原行成 33, 35, 36, 48, 59, 88, 89, 113,
 193, 242, 243, 248, 264, 269, 270, 298,
 310, 314, 321, 323, 325, 330, 333, 345
 藤原行成室(源泰清女) 298
 藤原行信 243
 藤原義懷 247
 藤原義忠 249
 藤原良繼 277
 藤原能信 5, 36, 269~271, 296
 藤原良房 277
 藤原能通 249
 藤原賴忠 277
 藤原賴成 154, 155
 藤原賴宣 155
 藤原賴通 3~5, 12~15, 29, 33, 34, 38,
 60, 61, 66, 73, 74, 81, 82, 89, 91, 99, 102,
 132, 133, 140, 145, 160, 162, 171, 182,
 189, 196, 207, 209, 210, 214~216, 220,
 221, 224, 228~230, 232, 233, 241, 244,
 246, 248, 249, 264, 267, 268, 271~273,
 278, 283, 285, 296, 320, 345
 藤原賴宗 5, 81, 82, 84, 92, 99, 100, 182,
 189, 263, 269~271, 296, 303
 藤原賴行 249

蒲庵古溪 107
 堀河天皇 280
 本阿弥光悦 107

 ま
 茨田重方 194
 三国致貴 248
 源 著信 145
 源 朝任 246
 源兼澄女(藤原周頼室) 302
 源 聞 246
 源 惟治 33
 源 周子 293
 源 高明 293
 源 高雅 249, 269
 源 孝道 249
 源 正 249
 源 為憲 248, 249
 源 為理 35, 153
 源 親平 249
 源 経貞 38
 源 経房 31, 32, 69, 81, 99, 149, 242,
 243, 246, 248, 249, 268, 269
 源 経頼 30, 166, 303, 345
 源経頼室 303
 源 俊賢 36, 73, 143, 166, 198, 242, 243,
 246, 248, 249, 262
 源 唱 293
 源 斉 249
 源 济政 35, 38, 67, 94, 248, 249
 源 信親 172
 源 憲定 248
 源 則忠 248
 源 雅実 356
 源 雅信 168, 292, 293
 源 雅通 244
 源 政職 74, 96, 193, 271, 302
 源 道方 32, 36, 38, 157, 162, 243, 246
 源(久我)通相 117~119
 源 致信 196
 源 至光 67, 94
 源 明子 5, 73, 95, 142, 198, 207, 210,
 293, 295~297, 299, 318, 320, 321

源 行任 165
 源 頼国 248, 249
 源 頼定
 30, 32, 164, 241, 245, 246, 248, 302, 308
 源 頼重 153~155
 源 頼光 30, 264
 源 倫子 4, 29, 30, 34, 35, 45, 91, 101,
 152, 153, 184, 185, 195~200, 242, 247,
 253, 264, 267, 291~297, 299, 318, 320,
 321
 宮道式光 266
 明尊 249
 明肇 31, 242
 三善孝行 248
 武者小路教光 120, 121
 村上天皇 275, 276
 紫の上 299
 紫式部 259, 282, 284, 289
 師明親王 194

 や
 吉田松陰 341

 ら
 林懐 30, 37, 242
 冷泉院
 35, 142, 242, 247, 276, 284, 285, 317
 蓮聖 30

 姓不明
 時国 169, 173, 174
 昌平 49, 50
 行方 38
 某(師実家司か) 9~11, 15, 51, 93~100,
 131, 133~136, 138~140, 160~175,
 178~183, 185, 189~192, 197~207,
 209~211, 214, 225~228, 230~232,
 235, 300, 302~304, 306, 307

 研究者等
 芥川龍之介 324
 阿部秋生 19, 63, 128, 130, 131, 176, 210,

212, 240, 241, 255, 256
池田尚隆
134~136, 176, 178, 205, 210~212
上原淳道 314
梅村恵子 296, 298, 299, 309
大津 透 iii, 27
奥野修司 343
尾上陽介 ii, 106, 123
加藤友康 335
岸 俊男 i
工藤重矩 309
黑板勝美 62, 123, 355
近衛通隆 124
斎木一馬 ii
佐藤 信 iii
佐原 真 6
島谷弘幸 335
竹内理三 317, 322
田中 琢 i
玉井幸助 23, 62
田山信郎 iii, 62, 127, 176
築島 裕 204, 212
土田直鎮
ii, iii, 106, 176, 319, 322, 344, 355
角田文衛 282
富田正弘 iii
中丸貴史 178, 205, 211, 212
名和 修 8, 19, 104, 106, 108, 111, 122
~124, 134, 136~138, 176, 314, 335,
360
野口孝子 296, 298, 299, 309
橋本義彦 282
藤本勝義 317, 322
細井浩志 iii
正宗敦夫 355
益田 宗 124, 175
松藺 齐 ii, 19
丸山裕美子 281
三橋順子 60
峰岸 明 174, 176, 205, 212, 314, 322
村井康彦 319, 322
村田正志 124
元木泰雄 ii

桃 裕行 ii, 347, 349
山口英男 iii
山下克明 19
大和和紀 107
山中 裕 351, 355
山本作兵衛 334, 335
與謝野晶子 355
與謝野寛 355

【『御堂関白記』 条文】

長保元年	
二月九日条	178
二月廿八日条	292
三月十六日条	52, 178
三月廿日条	282
閏三月十日条	324
九月廿四日条	65, 93
十月五日条	65, 93
長保二年	
正月一日条	42, 43
正月十日条	65, 87, 88, 93, 315
二月廿一日条	300, 305, 307
寛弘元年	
二月五日条	29, 43, 60, 66, 93
二月六日条	16, 29, 40, 41, 60, 66, 94, 179, 180
二月七日条	67, 94
二月十六日条	67, 94
二月廿二日条	29
二月廿六日条	30
三月七日条	30
三月九日条	30, 181
三月十三日条	30
三月十四日条	67, 94
三月十六日条	30, 44, 67, 94, 100
三月廿五日条	30
三月廿七日条	30, 67, 94
三月廿八日条	30
四月十四日条	68, 94
四月廿日条	30
四月廿五日条	68, 94
四月廿六日条	68, 95
五月六日条	68, 95
五月十二日条	69, 95
五月十五日条	69, 95, 181

五月十九日条	31, 69, 95
五月廿一日条	31
五月廿七日条	31
六月九日条	182
六月廿二日条	182
六月廿四日条	182
七月十一日条	182
七月廿日条	52
七月廿五日条	182
七月廿八日条	182
七月廿九日条	182
八月十一日条	52
八月十七日条	52, 268
八月廿三日条	52
八月廿八日条	47
九月九日条	52
九月十日条	182
九月廿五日条	49, 52
閏九月十四日条	52
閏九月十六日条	300, 307
十月十日条	52, 282
十月十四日条	52
十月廿一日条	52
十一月三日条	52
十一月八日条	183
十一月十五日条	52
十一月廿三日条	49, 52
十二月三日条	49, 50, 52
十二月十五日条	52
十二月廿一日条	52
十二月廿七日条	52, 300
寛弘二年	
正月九日条	183
正月十日条	282
正月十一日条	31, 69
正月廿九日条	70, 87, 88
二月十日条	70
二月廿五日条	71
三月四日条	71
三月八日条	31
三月廿七日条	71
四月四日条	183

五月二日条	183
五月十三日条	325
五月廿四日条	31, 54
六月十九日条	31
七月十日条	54, 241, 249
七月十七日条	54
七月廿九日条	241, 249
八月廿日条	295
八月廿一日条	242
八月廿二日条	242, 250
八月廿七日条	300, 307
九月一日条	183
十月十一日条	282
十月十五日条	183
十月十九日条	54, 242, 250
十一月十五日条	54, 183
十二月九日条	54
十二月廿一日条	54, 243, 251
十二月廿九日条	54

寛弘三年

正月一日条	55, 244, 251
正月廿八日条	55
三月三日条	55, 301
三月四日条	55, 244, 251
三月五日条	282
四月廿三日条	184
五月二日条	268
六月十六日条	55
七月三日条	55
七月十二日条	55
七月十三日条	55, 184
七月十四日条	55, 184
七月十五日条	55, 184
七月廿七日条	245, 252
七月卅日条	55
八月七日条	245, 252
八月十六日条	55
八月十七日条	55, 301
八月十九日条	245, 252
九月三日条	269
九月廿二日条	55, 245, 246, 253
十月二日条	55

十月五日条	247, 253
十月廿五日条	55
十一月廿七日条	55
十二月五日条	55
十二月廿六日条	55
十二月廿九日条	55

寛弘四年

正月三日条	55
正月九日条	55
正月十一日条	55
正月十二日条	55
正月十三日条	55
正月廿日条	55
正月廿六日条	55
二月九日条	55
二月廿一日条	247, 253
二月廿八日条	55
二月廿九日条	55
二月卅日条	55, 325
三月三日条	55
三月四日条	247, 253
三月十五日条	247, 254
三月十七日条	55
三月十九日条	55
四月廿五日条	55, 247, 254
四月廿六日条	55, 248, 254
五月卅日条	55
閏五月十七日条	55, 249, 254
七月十四日条	301, 305
八月二日条	184
八月九日条	71
八月十一日条	31, 60
十月一日条	31
十月四日条	72
十月廿六日条	72
十一月八日条	31, 281
十一月廿二日条	269, 279
十二月二日条	32, 283
十二月十日条	32, 270
十二月十一日条	72, 280

寛弘五年	
正月七日条	55
正月十六日条	55
正月廿五日条	55, 325
二月廿日条	301, 307
四月十三日条	55, 290
四月十八日条	55
四月十九日条	55
五月廿三日条	290
六月十三日条	290
六月十四日条	290
六月廿日条	290
曆卷下 襍紙	105
七月六日条	287
七月九日条	288, 290
七月十六日条	290
九月十一日条	43, 44, 290
九月廿一日条	110
十月十六日条	32, 44, 60, 72, 73, 114~116
十月十七日条	32, 60, 114, 115
十一月十七日条	184
十二月廿日条	32, 73, 113, 114, 118, 321
十二月卅日条	110

寛弘六年	
三月廿七日条	297
四月廿五日条	283
五月十七日条	47, 52
七月四日条	140
七月五日条	140
七月七日条	32, 135, 140, 184
七月十三日条	140
七月十四日条	140
七月十九日条	73, 95, 140
七月廿日条	140
七月廿三日条	140
七月廿五日条	32, 140
七月廿七日条	102, 140
八月六日条	141
八月十日条	141
八月十一日条	141
八月十三日条	141

八月十七日条	32, 141, 184
八月十八日条	141
八月十九日条	141
八月廿日条	141
八月廿三日条	73, 95, 141, 301, 305, 307, 308
八月廿六日条	141
九月一日条	141
九月二日条	32, 142
九月四日条	142
九月七日条	142
九月八日条	33, 74, 96, 142
九月十日条	142
九月十二日条	142
九月十六日条	143, 185
九月十八日条	143
九月十九日条	143
九月廿三日条	143
九月廿四日条	143
九月廿五日条	143
九月廿九日条	143
十月二日条	143
十月五日条	143
十月六日条	144
十月十三日条	144
十月十四日条	144
十月十五日条	144
十月十九日条	144
十月廿一日条	144
十月廿二日条	144, 283
十月廿三日条	144
十月廿四日条	144
十月廿六日条	144
十一月七日条	145
十一月八日条	145
十一月九日条	145
十一月十日条	145, 271
十一月十一日条	74, 96, 145
十一月十四日条	145
十一月十五日条	33, 74, 96
十一月十七日条	33, 145
十一月十九日条	145
十一月廿日条	145

十一月廿二日条	146	二月廿一日条	163
十一月廿五日条	33, 146, 185, 294	二月廿六日条	34, 75, 96, 164
十一月廿六日条	146, 147	二月廿九日条	164
十一月廿七日条	146	閏二月一日条	164
十一月廿九日条	146	閏二月六日条	34, 75, 97, 164
十二月一日条	147	閏二月十九日条	165
十二月二日条	33, 147	閏二月廿三日条	165
十二月三日条	148	閏二月廿五日条	165
十二月四日条	148	三月二日条	77, 97, 165
十二月六日条	148	三月三日条	165
十二月七日条	148	三月五日条	165
十二月十日条	148	三月六日条	165
十二月十二日条	148	三月八日条	165
十二月十三日条	148	三月九日条	166
十二月十四日条	33, 148	三月十日条	166
十二月十六日条	149	三月十一日条	166
十二月十九日条	149	三月十二日条	166
十二月廿日条	185	三月十三日条	166
十二月廿二日条	149	三月十四日条	166
十二月廿三日条	33, 149	三月十五日条	166
十二月廿四日条	149	三月十六日条	166
十二月廿六日条	33, 149	三月十七日条	166
十二月廿九日条	149	三月十八日条	34, 60, 77, 97, 166
		三月十九日条	168
		三月廿日条	168
		三月廿三日条	168
		三月廿五日条	34, 168, 292, 293
		三月廿六日条	168
		三月卅日条	34, 168
		四月五日条	169
		四月八日条	169
		四月十三日条	169
		四月十四日条	169
		四月廿四日条	34, 169, 170, 173
		四月廿五日条	34, 171
		五月十一日条	171
		五月十三日条	171
		五月十六日条	171
		五月廿八日条	172
		六月一日条	172
		六月三日条	172
		六月六日条	172
		六月七日条	172
寛弘七年			
曆卷上襌紙見返	59		
正月一日条	160		
正月二日条	160, 283		
正月三日条	185		
正月四日条	74, 96, 160		
正月五日条	160		
正月六日条	161		
正月七日条	33, 161		
正月八日条	161		
正月十一日条	161		
正月十五日条	34, 60, 161, 185, 206		
正月十六日条	34, 75, 76, 96, 162		
正月十八日条	163		
正月十九日条	163		
正月廿日条	163		
正月廿一日条	75, 96, 163		
正月廿二日条	163		
二月廿日条	163		

六月九日条	172
六月十四日条	172
六月十六日条	76, 77, 97, 172
六月廿日条	172
六月廿一日条	78, 97, 172
七月十七日条	52
七月廿七日条	52
八月廿一日条	52
九月十五日条	52
十月廿二日条	52
十一月廿八日条	47, 52
十二月二日条	52

寛弘八年

正月一日条	150
正月二日条	150
正月三日条	35, 150
正月四日条	150
正月五日条	35, 150
正月六日条	135, 150, 185
正月七日条	150
正月八日条	150
正月十三日条	150
正月十五日条	150
正月廿一日条	35, 78, 97, 150
正月廿二日条	78~80, 98, 151
正月廿六日条	151
正月廿七日条	151
正月廿八日条	151
正月廿九日条	151
二月一日条	151
二月二日条	151
二月三日条	151
二月六日条	79, 80, 98, 151
二月十日条	151
二月十四日条	151
二月十七日条	151
二月十八日条	151
二月十九日条	151
二月廿日条	152
二月廿四日条	152
二月廿九日条	79, 98
三月八日条	152

三月九日条	152
三月十二日条	79, 98, 152
三月十四日条	152
三月十六日条	152
三月十八日条	152
三月廿一日条	152
三月廿五日条	152
三月廿七日条	35, 152
三月卅日条	153
四月一日条	153
四月三日条	153
四月五日条	153
四月七日条	153
四月八日条	153
四月九日条	153
四月十日条	35, 153
四月十一日条	154
四月十三日条	154
四月十四日条	154
四月十五日条	35, 154
四月十六日条	154
四月十七日条	154
四月十八日条	35, 154, 185, 283
四月廿一日条	35, 155
四月廿三日条	155
四月廿五日条	155
四月廿七日条	155
四月廿八日条	155
五月八日条	155
五月十一日条	155
五月十二日条	155
五月十五日条	155
五月十六日条	156
五月十七日条	156
五月十八日条	156
五月廿一日条	35, 156, 321
五月廿五日条	156
五月廿七日条	156
六月二日条	36, 79, 98, 135, 156, 186, 206, 208, 301, 306
六月八日条	157
六月九日条	157
六月十三日条	36, 157

六月十四日条	158, 186, 271
六月十五日条	158, 187
六月十九日条	158
六月廿日条	158
六月廿一日条	158, 187, 188
六月廿二日条	158, 187
六月廿五日条	36, 158
七月一日条	188
八月十一日条	47, 52
八月十五日条	52
八月廿三日条	47, 52
九月五日条	52, 188
十月五日条	52
十月十六日条	28, 47, 52
十一月十六日条	52
十一月廿九日条	52, 188
十二月廿八日条	52

長和元年

正月三日条	36
正月十六日条	135, 189, 206, 208
正月廿七日条	36, 189
二月二日条	189
二月三日条	135, 189
二月五日条	189
二月十四日条	36, 44, 60, 81, 98
二月廿五日条	189, 209
三月廿三日条	36
三月廿四日条	190
三月廿五日条	190
四月廿一日条	190
四月廿七日条	36, 40, 41, 61, 81, 98
四月廿八日条	61
五月一日条	36
五月廿日条	326
五月廿三日条	37
八月十一日条	52
九月九日条	49, 283
九月廿日条	52
九月廿一日条	52
九月廿二日条	52
十月六日条	52
十月廿日条	52

十月廿八日条	52
閏十月十四日条	52
閏十月廿七日条	52
十一月一日条	52, 302
十一月十七日条	52, 190
十一月廿二日条	52, 302
十一月廿三日条	52, 190
十一月廿五日条	52
十二月四日条	52
十二月九日条	52
十二月十六日条	52
十二月十九日条	52
十二月廿五日条	52, 190

長和二年

正月二日条	46
正月六日条	45, 46
正月十日条	46
正月十三日条	45
正月十四日条	46, 190
正月十六日条	46
正月十七日条	191
正月廿六日条	45, 46, 191
二月六日条	191
二月九日条	45, 46
二月廿三日条	46
三月四日条	46, 191
三月九日条	46
三月十四日条	46
三月十六日条	46
三月廿三日条	45, 46, 136, 191
三月廿四日条	136, 191
三月廿七日条	45, 46
三月廿九日条	46, 191
四月十三日条	46
四月十四日条	45, 192, 209
四月廿三日条	46
四月廿四日条	136
四月廿七日条	46
五月十四日条	46
六月八日条	192
六月廿二日条	46
六月廿三日条	46, 136, 192, 209

六月廿七日条	46
七月二日条	52
七月廿二日条	52, 302
八月一日条	52
八月十日条	47, 52
八月十九日条	49, 52
八月廿一日条	49, 52
八月廿七日条	52, 326
九月十六日条	53, 283
十月六日条	53
十月廿日条	53
十月廿二日条	50, 51
十一月十六日条	53, 192
十一月廿日条	53
十一月廿八日条	53
十一月廿九日条	53
十二月十日条	53
十二月十五日条	53
十二月廿二日条	192
十二月廿六日条	53

長和四年

四月三日条	53
四月四日条	53
四月七日条	53
四月廿一日条	53
六月十四日条	53
閏六月五日条	53
閏六月廿三日条	53
閏六月廿六日条	53
七月二日条	302
七月八日条	192
七月十五日条	47, 53
七月廿三日条	192, 302
八月二日条	53
八月廿七日条	50, 51
九月五日条	53, 193
九月十四日条	53
九月廿日条	24, 53
十月廿一日条	53
十月廿五日条	48, 53, 193, 296
十月廿七日条	53, 283, 302, 306, 307
十月廿八日条	53, 194

十一月八日条	194
十一月十三日条	194
十一月十七日条	53
十一月廿七日条	53
十二月四日条	53, 194
十二月廿七日条	53, 194
十二月廿八日条	24

長和五年

正月十三日条	50, 194, 224
正月廿三日条	53
正月廿九日条	53
二月一日条	195
二月七日条	53, 195
二月十三日条	53
二月十九日条	53
二月廿五日条	53
二月廿六日条	53
二月廿七日条	53
三月二日条	53, 195
三月三日条	53
三月四日条	53, 195
三月七日条	53
三月八日条	53
三月十二日条	53, 302
三月十四日条	53
三月十五日条	195
三月廿日条	53
三月廿一日条	53, 195
三月廿三日条	195
三月廿四日条	196
四月七日条	53
四月十一日条	53
四月十三日条	196
四月十五日条	53
四月廿一日条	53, 302, 308
四月廿四日条	53
五月十六日条	53
五月廿五日条	53, 303
五月廿六日条	53, 303
五月廿八日条	53
六月二日条	53
六月十日条	53

五月廿二日条	38, 40, 42
七月廿七日条	53, 199
七月廿八日条	53, 272
八月十九日条	53
八月廿九日条	53
九月八日条	53
九月十六日条	53
十月五日条	53
十月十一日条	50
十月十六日条	48, 53, 60, 199
十月廿二日条	25, 48, 53, 60, 199, 304
十月廿四日条	199
十月廿八日条	53
十月廿九日条	53
十一月九日条	53, 200
十二月廿三日条	304
十二月廿四日条	304, 308
寛仁三年	
正月五日条	53
正月七日条	283
二月六日条	53
二月廿八日条	53
八月廿七日条	200
八月廿九日条	84, 100, 101

『御堂御記抄』

長徳元年

五月十一日条	6
六月五日条	6

寛弘二年

七月十日条	239, 241, 249
七月廿九日条	239, 241, 249
八月廿二日条	239, 242, 250
十月十九日条	239, 242, 250
十二月廿一日条	239, 243, 251

寛弘三年

正月一日条	239, 244, 251
三月四日条	239, 244, 251
七月廿七日条	240, 245, 252
八月七日条	240, 245, 252
八月十九日条	240, 245, 252
九月廿二日条	240, 246, 253
十月五日条	240, 247, 253

寛弘四年

二月廿一日条	240, 247, 253
三月三日条	240, 247, 253
三月四日条	247, 253
三月十五日条	240, 247, 254
四月廿五日条	240, 247, 254
四月廿六日条	240, 248, 254
閏五月十七日条	240, 249, 254

◎著者略歴◎

倉本 一宏 (くらもと・かずひろ)

1958年、三重県津市生まれ。1983年、東京大学文学部国史学専修課程卒業。1989年、同大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程単位修得退学。1997年、博士（文学、東京大学）。
現在、国際日本文化研究センター教授。

主な著書

『摂関政治と王朝貴族』（吉川弘文館、2000年）、『一条天皇』（人物叢書、吉川弘文館、2003年）、『藤原道長「御堂関白記」全現代語訳』（講談社学術文庫、講談社、2009年）、『三条天皇』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、2010年）、『藤原行成「権記」全現代語訳』（講談社学術文庫、講談社、2011-12年）、『藤原道長の日常生活』（講談社現代新書、講談社、2013年）、『藤原道長「御堂関白記」を読む』（講談社選書メチエ、講談社、2013年）、『現代語訳 小右記』（吉川弘文館、2015年～）、『藤原氏』（中公新書、中央公論新社、2017年）

み どうかんぱく き けんきゅう
『御堂関白記』の研究

2018(平成30)年11月11日発行

著 者 倉本 一宏

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 上野かおる + 中島佳那子
(鷺草デザイン事務所)

印 刷 株式会社 図書 同朋舎
製 本 印刷

© K. Kuramoto 2018 ISBN978-4-7842-1957-5 C3021